

令和6年度 中央区立久松小学校 自己評価報告書

中央区立久松小学校 住所 東京都中央区日本橋久松町7-2
校長 植村洋司 児童数 985人 学級数 30 教職員数 91 令和6年3月19日現在

- 教育目標 「強 く」「正 し く」「豊 か に」
- 心身ともに健康で、自律と自立のための強い意志と向上心をもち、自らよりよい成長を目指す。
 - ものごとを正しく見つけ、正しい判断と行動のできる主体性を身に付ける。
 - 豊かな心情や創造性を高め、互いに尊重し合い、思いやりの心をもち、共生社会の担い手となる。

1 令和6年度の重点の達成状況及び取組状況

豊かな心と健やかな体の育成

(主体性・関わる力・健康・体力・主体的・対話的で深い学びの育成)
～教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの充実～

重点目標1 「年間を通じた教育課程の充実」

～教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの充実～

- 評価項目 (1) 「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を核とした
資質・能力の育成を目指した教育課程の編成
(2) 教員の授業力向上
(3) 開かれた学校づくりの推進

- 評価指標 (1) 全体計画の改善・充実 重点化と年間指導計画の改善
特色ある教育活動の充実 授業時間数確保
学校2020レガシー教育の充実
(2) 分かる授業の実践 認め合い励まし合える小集団活動
全教科、特別の教科 道徳、英語科・英語活動、理数系の充実
(3) 「久松すくすくプラン」に基づいた家庭との連携
近隣保育園、幼稚園、中学校との交流機会の確保
学校公開やホームページ等を通して積極的な情報発信

重点目標1に関する評価(5段階)で、「5十分に達成している」「4達成している」の評価の割合が約8割であった。

(1) 教育課程の編成

- ・ 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、新たな教育活動の在り方について検討し、計画・実施してきた。また、児童数の増加に対応するため、登校時や集会、ひさまつりや体育学習発表会をはじめとした学校行事等、様々な場面での分散実施とICT機器の効果的な活用の工夫をしてきた。その中で行事ごとの評価を行い、その結果を活用して次年度の計画を立てている。
- ・ 新たな取組として、「入学式の二部制」「毎年度全学年クラス替え」「一足制」等を実施した。
- ・ 校内研究では、今年度も「カリキュラム・マネジメント」についての研究を継続し、さらに深めてきた。長年研究を進めて、新学習指導要領に対応した指導の重点化、全体計画・年間指導計画の改善・充実を図ることができた。特に今年度は、地域資源や地域人材を活用した学習を積極的に行ってきた。今後は、系統的に各学年において、地域の材(財)を活用した学習を計画・立案し、地域に根ざした学校づくり、地域の一員としての人材育成を目指している。
- ・ 学校2020レガシー教育として、東京オリンピックでハードル走日本代表として準決勝に進出した寺田明日香選手を招聘し、5年生にハードル走の授業を行った。目の前で一流選手の試技を見ることで、運動のポイントをしっかりと学ぶことができた。また、1年生を対象とした『笑顔と学びの体験活動プロジェクト』(東京都教育委員会主催)では、ゲストティーチャーを招いたタグラグビーにつながる運動遊びの実践を通して、運動することの楽しさを味わうことができた。

- (2) 教員の授業力の向上
- ・ 昨年度同様、校内研究の充実、一部教科担任制、交換授業・カリキュラム・マネジメントの充実等により小集団活動を活用した学び合いのある授業、分かる授業づくりを追究した。
 - ・ また、日々の授業において、様々な思考ツールを積極的に取り入れてきた。児童自らが、目的や意図に応じて思考ツールを選択し、活用する姿も見られた。
 - ・ 校内研究授業を全学年で実施した。授業者だけでなく、すべての教員が授業作りに携わることで、児童の実態に即しためあての設定や、そのめあてを達成するための学習形態の選択や指導方法の工夫について、理解を深めることができた。
 - ・ 文部科学省初等中等教育局視学官の田村学先生を講師として招聘し、御指導をいただくことで、教員の授業を観察する力が向上し、自身の授業改善にも生かされた。
- (3) 「久松すくすくプラン」に基づいた地域・家庭との連携
- ・ 昨年度に引き続き、久松幼稚園や近隣の保育園との交流活動を行うことができた。それにより、保幼小連携の意識も高まった。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」「アプローチカリキュラム」「スタートカリキュラム」を意識して指導に当たることで、スムーズな保幼小接続につながった。久松幼稚園移転の影響は否めないが、「久松は一つ」を合言葉に、交流をつなげていきたい。
 - ・ 体育学習発表会やひさま祭りなどにおいて、参観形態や開催方法を工夫したことにより、学校の様子を見ていただくことができた。

重点目標2 「豊かな心と健やかな体の育成」 ・ ・ ・ 知・徳・体のバランスと調和を重視し、
自立・協働・創造 特に豊かな心と健やかな体を育てる。

- 評価項目
- (1) 違いを認め、互いに尊重し合い学び合う集団づくりを通し温かい人間関係を育む。
- (2) 自らの健康・体力についての関心を高め自己管理能力を育成する。

- 評価指標
- (1) 小集団活動の推進 学び合いの重視 異年齢活動・交流活動の推進
久松しぐさ 特別支援教室「スマイル」の指導の一層の充実
- (2) 基本的な生活習慣の定着 異年齢活動、交流活動での人間関係づくり
「久松しぐさ」によるルールやマナーの尊重 「返事・あいさつ・ありがとう」の徹底
- (3) マイスクールスポーツの充実 体育、保健学習、食育の充実 健康教育
ロング放課後の確保

重点目標2に関する自己評価では、いずれも90%以上の教職員が肯定的な評価をしている。

- (1) 温かい人間関係を育む
- ・ 全校朝会、生活指導、学級指導などで、人と人との関係性について指導してきた。そのおかげで児童一人一人が互いを尊重し学び合うことができる温かい集団づくりを目指し、他者との関係を適切にもつことができるよう、意識ができるようになった。
 - ・ 多様な仲間との関わりの中で生じる課題について、自分たち自身で解決しようという力が身に付いてきた。
 - ・ 年間を通して、全校縦割り班活動などの「異年齢活動」、児童相互挨拶の実践「あいさつ当番」や、代表委員会を中心とした思いやりを行動で表現する「久松しぐさ」等の取組により、コミュニケーション力や温かい人間関係を育む力、相手意識を育成することができた。
- (2) 健康・体力の自己管理能力の育成
- ・ 児童数増加による運動時間の確保に関する課題に対し、休み時間や縦割り遊びなどでは時程を工夫するなどして、校庭・アリーナ・屋上などで遊ぶ時間と場所を確保できた。
 - ・ マイスクールスポーツである「水泳」においては、6月から9月にかけて、全学年で実施した。また、水泳授業の公開も実施し、保護者にも学習の様子を見ていただくことができた。夏季休業中の水泳教室では、外部指導員を活用した指導も行った。また「なわとび」については、休み時間に体育委員会が積極的なわとび検定やリズムなわとびを行ったりするなど、指導を継続した結果、なわとびに取り組む児童がかなり増えた。第4学年においては、体育学習発表会でも縄跳びを取り入れた表現運動を披露した。さらに、毎月の保健だよりによる指導や保健指導を中心に、健康教育の充実を図ることができた。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

家庭・地域社会
多様な関係機関
との関係づくり

- ・ 体育学習発表会や展覧会等の学校行事や、土曜学校公開日において、開催形式や参観方法を工夫することで、児童数増加による課題がある中、保護者や学校評議員の皆様に、教育活動の様子を見て頂く機会を設けることができた。
- ・ 各学年で地域に関する学習に取り組み、学校周辺に出かけての学習が充実した。地域の方々をお招きしての学習を取り入れることもできた。地域の人々と関わりながら発達段階に応じた充実した学びが実現できた。

3 今後の改善方策

- [1] 主体的に思考を深め、互いの考えを豊かに表現し、共有し合う、深い学びの推進
- ・ 自ら課題を解決し実行できる力を育む教育活動・学校運営全般におけるカリキュラム・マネジメントの推進
 - ・ タブレット端末の更なる効果的活用とメディアリテラシーの涵養
 - ・ 校内研究、研究実践報告会、一部教科担任制、交換授業等による授業研究のさらなる充実
 - ・ タブレット端末による個々の能力に応じた習熟度別の基礎基本の定着
- [2] 温かい人間関係を育む教育の推進
- ・ 他者への寛容の精神、多様性の理解の醸成
 - ・ 年間を通した「久松しぐさ」の推進と定着
 - ・ 心のこもった「返事・あいさつ・ありがとう」言葉遣い
 - ・ 「早寝・早起き・朝ご飯」など基本的な生活習慣の定着 ・ 異年齢活動、幼稚園・保育園との交流活動の充実
 - ・ 宿泊・遠足等行事、勤労感謝集会、地域清掃などを通した体験活動の充実
 - ・ 久松すくすくプラン(発達の段階を踏まえた到達目標)を見直すとともに、全職員による共有と指導の徹底
- [3] 健康と体力向上についての自己管理能力の育成
- ・ ICT機器を活用した体育の授業の充実 ・ マイスクールスポーツ「なわとび」「水泳」への取組
 - ・ 水泳サポート教室、マット・跳び箱サポート教室の取組
 - ・ 食育、保健学習の充実
 - ・ 中休み、昼休み、ロング放課後遊び等、遊びの時間と場所の確保・充実
 - ・ 東京2020レガシー教育等の推進
 - ・ トップアスリート等による講演会・スポーツ教室の実施